がって付いていて，未熟の緑色の果が葉柄内の上部にあった。それでこの果実は受精後1年間以上を要して熟すらしい。同一の樹に未熟果と熟果とが上下にあるのを見た。

この仁を横井さんの方法で四ツ割にして10日間流水に浸した後，煮て塩味で食べて見た。ジャガ芋の固煮の様でしこしこしてうまかった。

これらの外には野性植物の食料は記されていないが，多少の動物質を摂取して，よくも28年間も苦労して生きぬいた，横井さんの生命力と精神力は驚異に値いする。

(山梨県南都留郡[illegible])

□原 寛氏 The Linnean Society of London の Foreign Member に Prof. Hiroshi Hara nominated by the Linnean Society of London as Foreign Member

The Linnean Society of London は1788年創立の生物学分野でも最も歴史と伝統のある学会ですが，1976年5月24日の年総会で，本誌の編集代表者　原寛氏が Foreign Member (F. M. L. S.) として，全会一致で選ばれました。これは同氏の永年にわたる IAPT (The International Association for Plant Taxonomy) 役員としての国際的な活躍やヒマラヤの植物の研究業績が高く評価されたためと考えられます。現在まで日本の生物学者（動物学者も含む）で F. M. L. S. に選ばれたのは，天皇陛下を除いてはじめてということです。

一般によく知られているように，The Linnean Society of London はロンドンの目抜き通りピカデリーの Burlington House の中にあって，地下の大倉庫にはリンネの標本が保管されており，また図書室には動，植物関係の稀覯書や有名動，植物学者の原稿（未出版）から最近の出版物まで揃っています。また現在も各種の学術雑誌を発行し，国際的シンポジウムや講演会を開催するなど，活発に活動しています。こうした由緒ある学会の Foreign Member に，今回，原寛氏が推挙されたことは，大きな喜びであり同氏に心からお祝いを申し上げます。　(黒川逍・Syo Kurokawa)

□日本第四紀学会：**日本の第四紀研究，その発展と現状**　416ページ，4,700円，東京大学出版会 (1977, I.)。日本第四紀学会がその創立20年を記念して，日本の第四紀学の発展と現状を記録することにより提示したもので，まことに圧巻である。34名の多数にのぼる執筆者が筆をそろえて，会史からはじめて編年，年代測定（放射性元素とフィッションストラックにより），テフロクロノロジー，海面変動，海底地形，地殻変動，氷河作用，古気候　古土壌，植物群及動物群の変遷，人類と文化，古地理の変遷等とまことに多岐にわたって描写し論考されている。現在の植物を取扱うものとして，その近い過去の姿はゆるがせにできないこと論を待たぬから，ぜひ一本を備えてほしいと思う。巻末の資料集は50ページに及ぶもので，少々活字が小さすぎてよみずらい欠点はあるが中々に有益である。ただ付4-5のようにブナクラス域の符号が誤っているなどは困る。　(前川文夫)